

事業番号 0022

(事業名) 地方版総合戦略の推進に必要な経費

(担当部局) 地方創生推進室

－公開プロセスの評価結果－

<評価結果>

事業内容の一部改善

<取りまとめコメント>

一般的には EBPM の推進という観点から有用な施策と考えられる。しかし、RESAS、V-RESAS の事業目的の明確化、すなわち自治体が施策を策定する上での利用と、「その他の利用」について、それぞれ対応をどうするのか明確にする必要があるのではないかと。また同時に、その普及を後押しする専門家の派遣、研修の実施等についても、その目的の明確化に沿って、対応が考えられるべきである。

利用が拡大されるにつれて RESAS、V-RESAS の効果検証が必要となる。EBPM に利用されたと言っても、どの部分がどう役立ったかの検証がないままでは不適切である。専門家の派遣や研修等、利用に付随して行なわれる事項についても、同様に効果の検証が求められる。

これらの検証を通じて、データベースの内容、その利用方の改善が図られ、また将来的には、このデータベースの維持についての方向性を国が判断する材料にもなるものと思われる。

なお、V-RESAS については新型コロナウイルス感染症対策と関係づけた説明を受けたが、V-RESAS 自体が新型コロナの収束とともに終了するものなのかは不明確であった。予算額の大きさからも、あらかじめ明確にすべき事柄と思われる。

<外部有識者の評価>

イ 廃止	0名
ロ 事業全体の抜本的な改善	2名
ハ 事業内容の一部改善	4名
ニ 現状通り	0名

<外部有識者のコメント>

(アウトカム、効果検証について)

- ・アウトカムは、RESAS が活用され、地方創生・地方版総合戦略の策定にどのくらい貢献したのかを評価すべきである。すでに 100%になっているが、この RESAS が無い場合に、どのくらい影響があるのかを示すのは難しいかもしれないが、新たな目標を検討し、RESAS の成果を説得的に示すべきである。
- ・セミナーも開催するだけでなく、その開催により、RESAS がどのくらい活用されやすくなったのかの評価も必要である。
- ・V-RESAS は、開始から時間が短く認知度が低い。利用度を上げ、その価値を説得的にするためにも、その内容の価値を評価し、随時、改善を考えるべきである。
- ・アウトカムとして地方版総合戦略の策定を掲げているが、これ自体は閣議決定であるので、本事業のアウトカムとするのはいささか無理がある。また、戦略の策定および PDCA に RESAS を活用することを薦めているが、実際にどのように活用されているかは不明であり、この点について検証が必要である。
- ・アウトカムにアイデアコンテスト件数が掲げられ、また政策・施策などの立案例も示されているが、それによって具体的にどのような成果があがっているか確認する必要がある。
- ・研修を行い、使われて、戦略・政策・施策がつくられたとしても、それでは不十分であり、具体的にいかなる効果を得たかを把握しなければならない。
- ・RESAS 系事業の目的を地方創生に限定せず、もっと普遍的な政府が地方自治体を支援するためのツールとして持ちかえるということも考えられるのではないか。この事業のアウトカムを何であるとみなすのかということに関係すると思われる。
- ・本事業は地方公共団体による EBPM（根拠に基づく政策形成）に資する事業であり継続すべきだが、一部について改善が求められる。本事業の主目的は地方版総合戦略の策定を情報面から支援する地域経済分析システム（RESAS）の提供に関わる支援であるが、地方版総合戦略の策定に RESAS がどの程度利用されたかが評価されていない。また、具体的事業内容のうち①有識者を派遣と、②専門人材を配置については、レビューシートにアウトプットとして記載がない。地方版総合戦略の策定のためにツールを提供するのに、そのツールである RESAS が地方版総合戦略の策定に役立ったかが評価できないというのでは、EBPM として成立しない。RESAS の提供が地方版総合戦略の策定にどう役立ったかという「効果評価」について、予算の一部を割いて実施するように求める。

(事業設計について)

- ・EBPMの観点から重要な事業と思うが、データそれぞれの性質、成り立ちからして利用に当たっては注意が必要である。
- ・データベースの利用拡大として、民間、学校、学生の利用も進んでいるようだが、自治体に対して専門家の派遣、研修などが行われているが、民間までそのような手立てを講じるのか検討が必要である。
- ・V-RESASについては、現在のところ補正予算でのみとなっているが、継続性は担保できるのか。
- ・普及促進活動においても意見を集め、RESAS、V-RESASの改善につなげていくことも望まれる。RESASとV-RESASの連携も模索すべき。
- ・地方創生が目的とするならば、RESAS、V-RESASがそれいかに使われ、その結果として地方創生に貢献したかを検証しなければ事業の有効性がわからない。しかし、レビューシートではRBPM+PDCAの確立のようなので、その点を明確にすべき。
- ・RESAS系の事業が複数あること、あるいはそれが拡散していくことはあまりよい方向性であるとは思われない。RESASとして一本化し、RESASブランドとしてまとめ国民にとって分かりやすいかたちを整えて頂きたいところである。
- ・説明が変わってきている。最初は地方創生だったはず。それがコロナ対策にすり替わっている。
- ・V-RESASは事後評価にも使えるツールにするべき。

(その他)

- ・補助金・交付金の申請に使うということが実務的には考えられる。補助金・交付金との連携ということになれば霞ヶ関内の連携をどうするのかということが課題になると思われる。